

## 「解答」・「解答例」・「出題の意図」

選抜区分	2024年度（選抜区分：一般後期） 文学部 比較文化学科（科目名：小論文）
<b>問題 1（標準的な解答例）</b> <p>「恰好が良い」は中国から輸入され、室町から江戸時代に定着した言葉で「あるものとあるものがうまく調和する・対応する」という理想的な状態を指す。理想像からのズレが重要で、その調和の程度によって恰好が良いか悪いかが判断された。専門家や通人が評価を下したが、マスメディアが発達するまでは彼らの評価の影響力は限定的だった。それに対し、理想像との合致という意味は残した上で、「しびれる」ような生理的興奮をもたらし、所有願望や同化・模倣願望をかき立てる際に用いられるのが「カッコいい」である。根拠はその人の体感であるため、身体を備えたすべての人間が主体的にカッコいいかどうかを判断できるようになった。理想像は予め共有されておらず、個々の「しびれる」体験を共有する仲間が必要となり、それをメディアが後押ししてきた。(350字)</p>	
<b>問題 2</b> <b>（評価のポイント）</b> <p>①<b>文章読解力</b>：問題文の論者は、「カッコいい」人やものを求めるのは、自分が何に「しびれる」人間であるかを知ることにつながるため、自分探しにつながると論じている。このことをまず文章から読み取れているか。</p> <p>②<b>知識の応用力</b>：身近な具体例を出し、問題文に引き付けて説明できているか。自己の感覚について現状の説明や肯定に満足せず、客観的な視点でもって説明できているか。</p> <p>③<b>考察力および洞察力</b>：「カッコいい」人やものを求めることが自己発見につながるという道筋に沿って考察できているか。何を自己発見できたのか、自己の状態について多角的に分析できているか。</p>	
<b>（解答の一例）</b> <p>「自由に」生きることが求められた際、どのように生きるかを考える上で、自分がどういったものに「しびれる」人間なのかをも探ることになる。それを通して自分自身を知ることが可能となるため、「カッコいい」人やものを求めることは「自分探し」といえる。</p> <p>私は受験で志望校を決める際、進路に悩み、鬱屈した日々を送っていた。そのとき耳にしたミュージシャンのスピッツの曲「夜を駆ける」がとてもカッコいいと感じ、救われたような気持ちになった。スピッツの楽曲は、柔らかでポップな印象がある。しかし、歌詞をよく聴いてみると、奥には独特の狂気が潜んでいるのだ。そのことに気づいたとき、そこにある種の気高さを感じ、同時に強く共感した。その世界観に憧れ、ファンクラブにも入った。このことから、私は、一見すると明るく親しみやすい雰囲気であっても、奥に秘めた狂気をもった多重的な人間に強く惹かれるのだということを見つけた。(392字)</p>	